

【参考 1】 防食被覆範囲の例

ここでは、本章 3.4 の表 3-9 に示す各施設の腐食環境の分類例を基に、施設毎の腐食環境分類及び防食被覆範囲の例を示す。なお、処理フローは、図 3-9 のように仮定し、以下の条件に従って防食被覆範囲を設定している。

- ① 下流側に堰等が存在することにより、水位の比較的安定している部位については、気相部及び計画最低水位（LWL）より 30cm 下の液相部まで防食被覆を行うものとする。
- ② ポンプ排水量や水量の増減が大きいこと等により、水位変動が激しく、最低水位が床版付近まで低下することが想定される施設については、全面に防食被覆を行うものとする。
- ③ 築造後、点検、補修、改築が困難と想定される水路、ピット等については、全面に防食被覆を行うものとする。

上記の条件による施設毎の腐食環境分類及び防食被覆範囲の例を図 3-10 に示す。

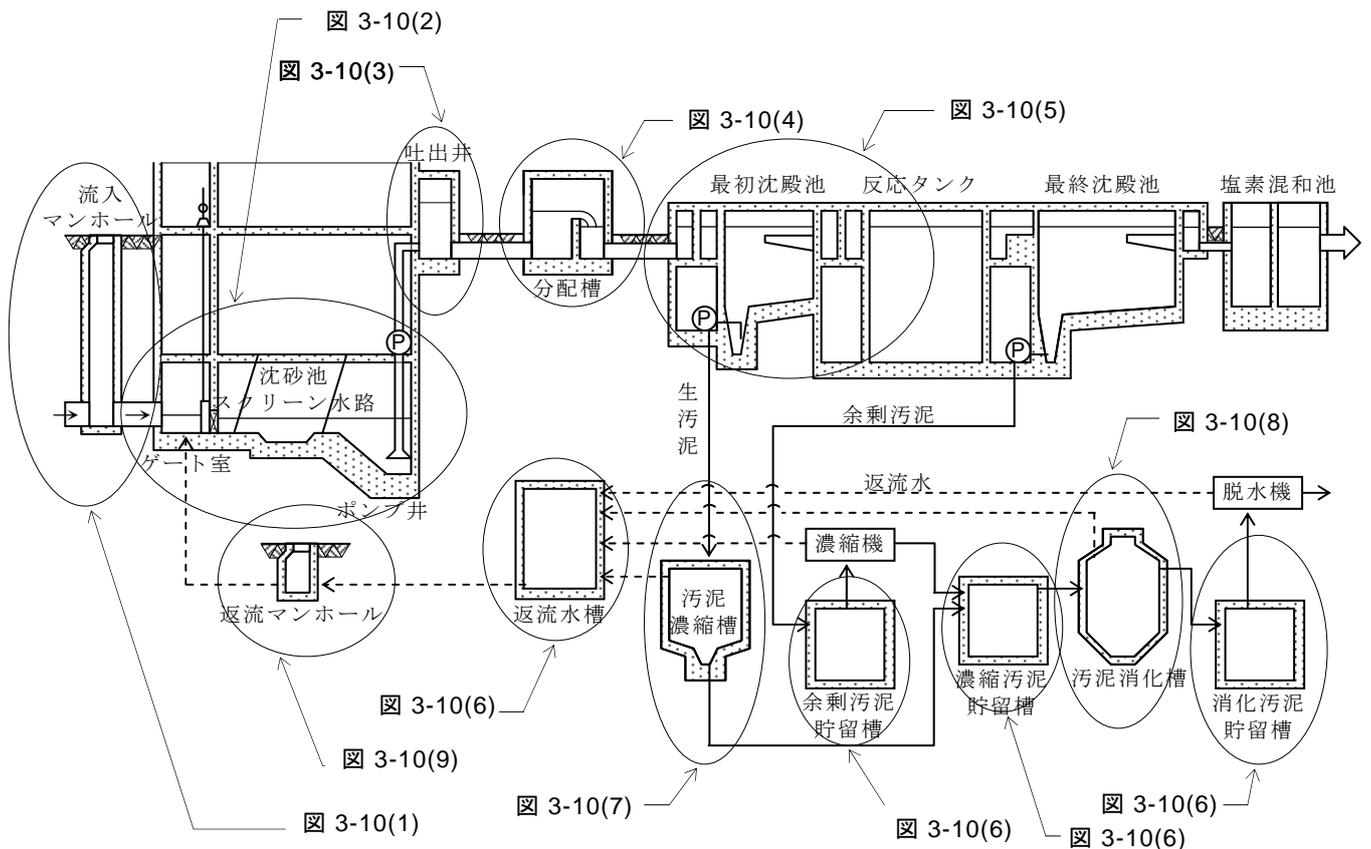
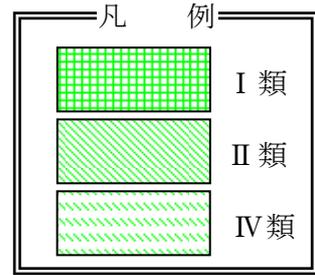
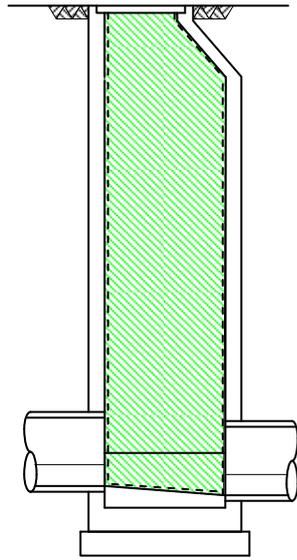
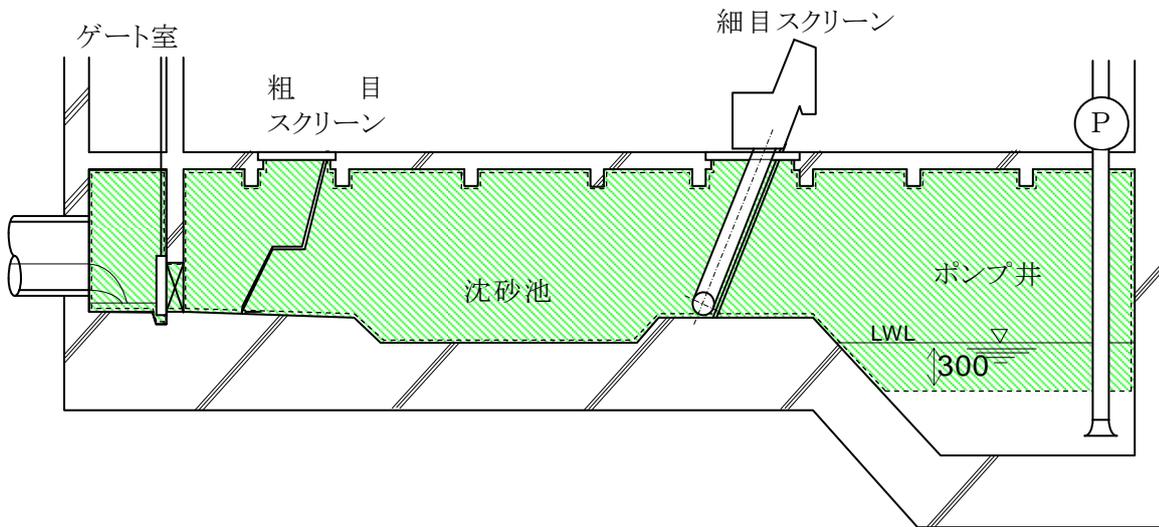


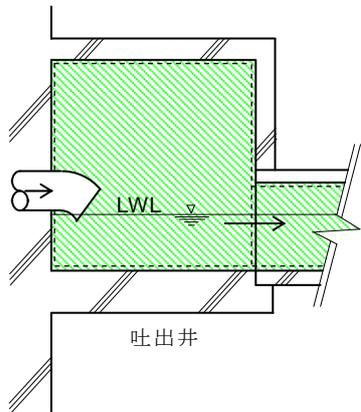
図 3-9 想定処理フロー



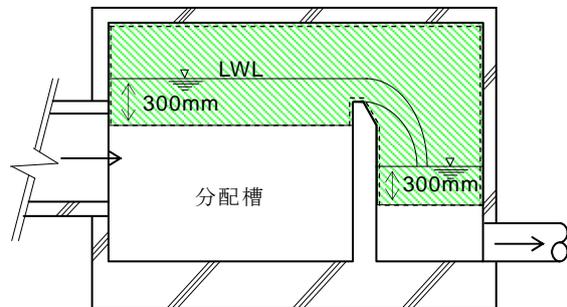
(1) 流入マンホール



(2) ゲート室、スクリーン水路、沈砂池、ポンプ井

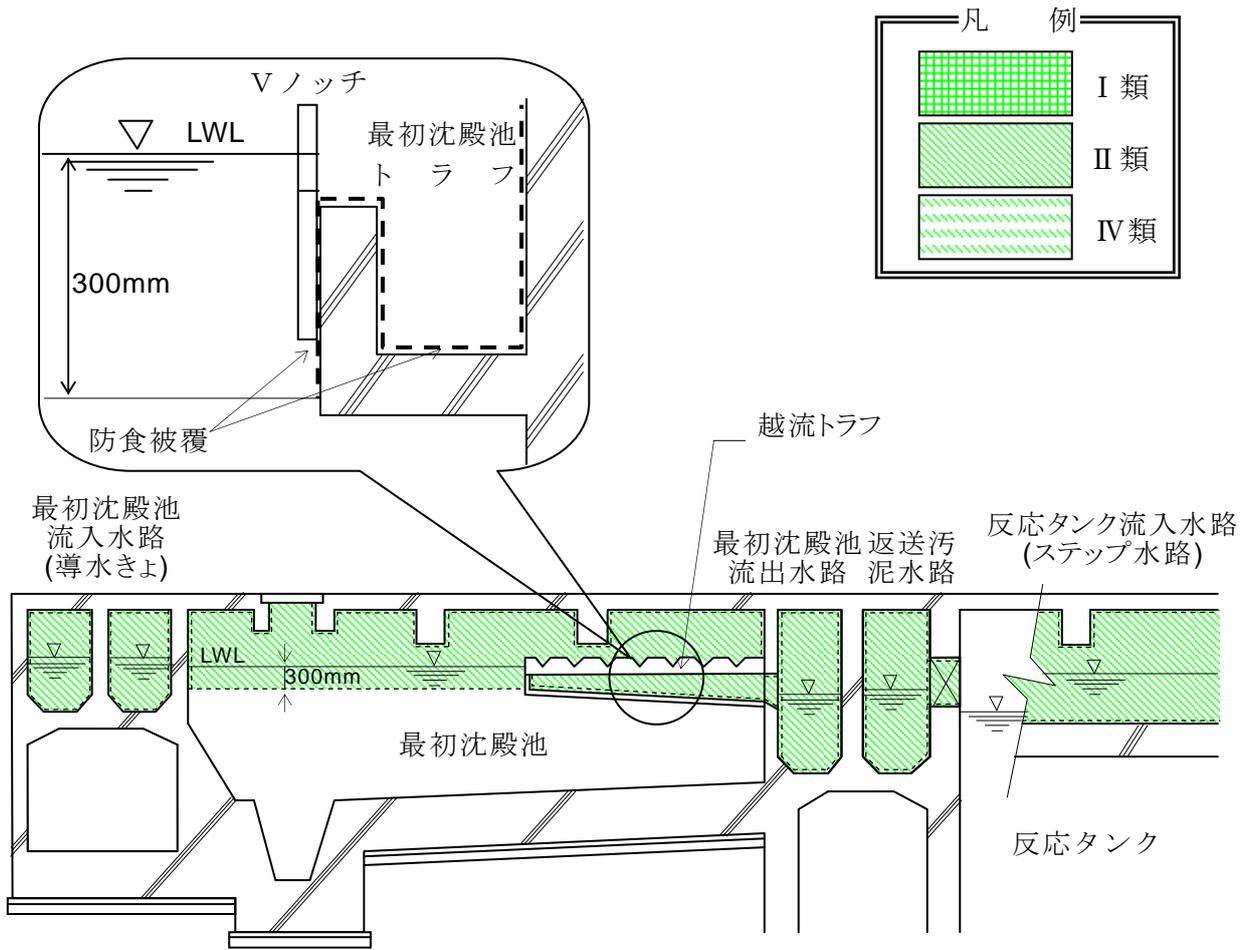


(3) 吐出井

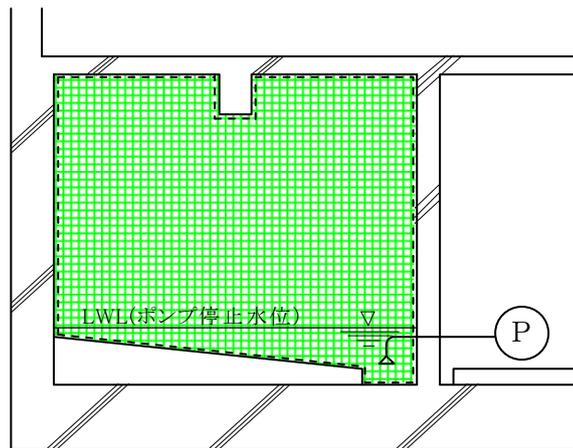


(4) 分配槽

図 3-10 腐食環境分類と防食被覆範囲の例 (1)

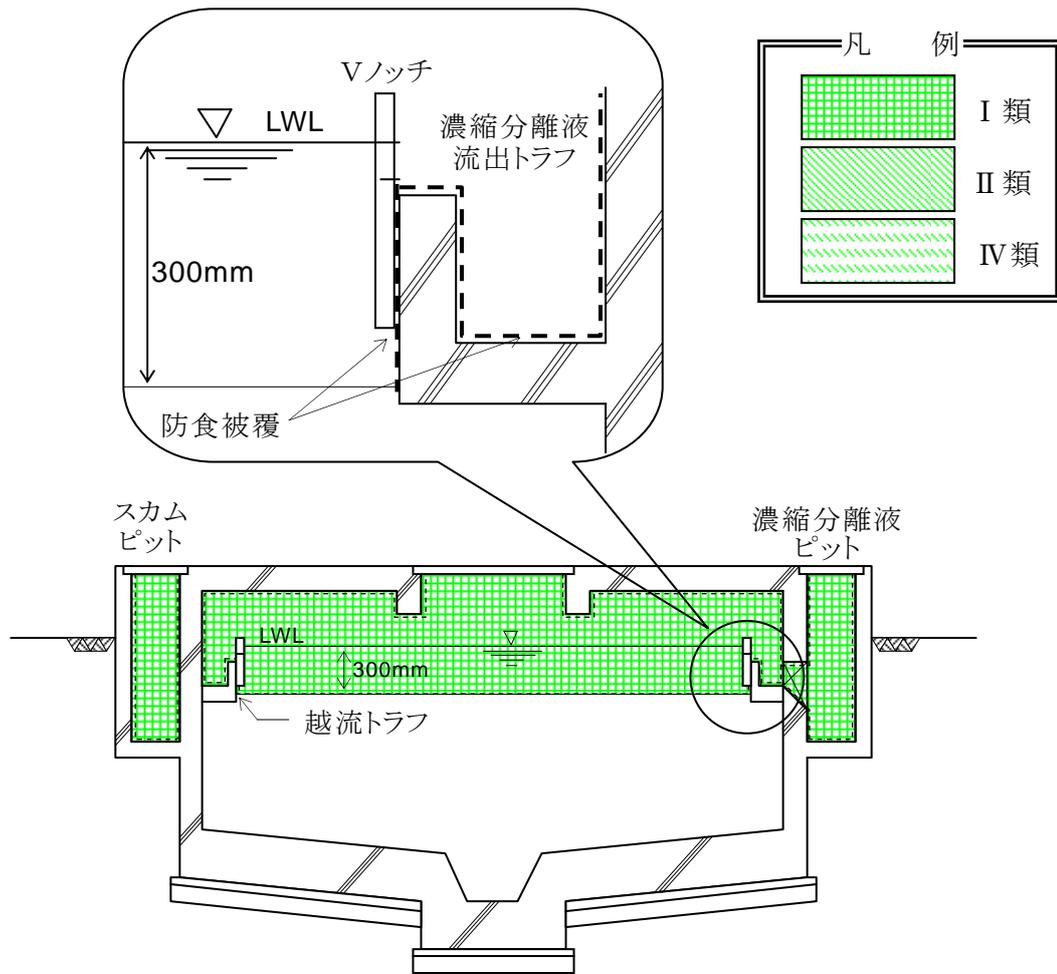


(5) 最初沈殿池、反応タンク周り

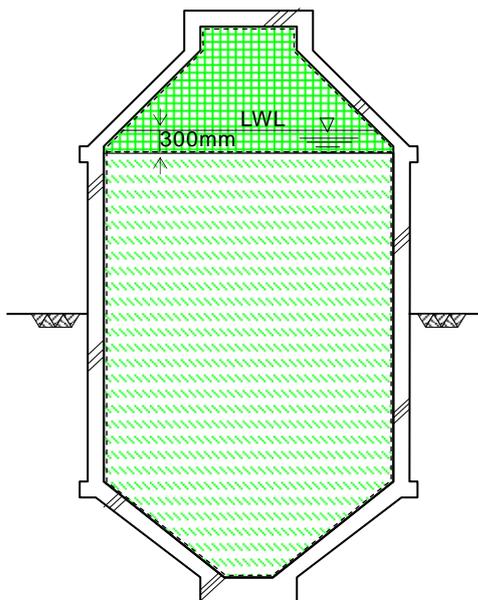


(6) 汚泥貯留槽

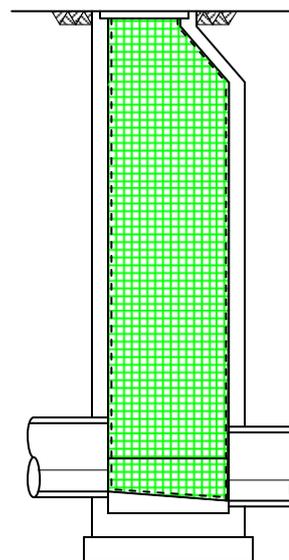
図 3-10 腐食環境分類と防食被覆範囲の例 (2)



(7) 汚泥濃縮タンク等



(8) 汚泥消化タンク



(9) 返流水管マンホール

図 3-10 腐食環境分類と防食被覆範囲の例 (3)